

【資料 1】

令和 6 年度中国四国社会教育研究大会 徳島大会 報告

開催日：令和 6 年 1 月 28 日（木）～ 29 日（金）

会 場：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）（徳島市藍場町 2－14）

【基調講演】

講師 認定 NPO 法人グリーンバレー前理事長

学校法人神山学園（神山まると高専）設立発起人 大南 信也 氏

演題 『偶発性をデザインする』

～人口 5000 人の徳島県神山町はなぜ進化し続けるのか～

- ・地域活性化や移住促進における「人のつながり」の重要性。
- ・地域の持つ可能性を引き出すため、何らかの魅力や可能性を感じられる状況を作り出す。
特定の職種をターゲットにした移住者の募集（「〇〇インレジデンス」プログラム）
→滞在した外部人材の持つつながりが、新たな外部人材を呼ぶ
- ・やったらえんちゃうん！の精神。アイデアキラーにならないように。
- ・地域の課題を「自分ごと」として取り組む人材（40 歳以下中心）を集める仕組みづくり
→未来志向のグループに

【パネルディスカッション】

テーマ 「誰もが輝くウェルビーイングの社会を目指して」

パネリスト NPO 法人 あわ・みらい創生社 代表理事 井原 まゆみ 氏

合同会社 RDND（アール・デ・ナイヴ） 代表社員 東 輝実 氏

徳島市まちづくり協働プラザ 事務局長 長谷川 準 氏

- ・田舎では、活動資金の受け皿となる団体や、民間企業、行政、観光業界との連携が重要
- ・まずビジョンを決めること
→ビジョンがあると、ぶれない、成長する。目標を共有するために言い続ける。
- ・自分自身が主体的に取り組む姿勢、人と人をつなぐ役割の重要性を言われていた。
- ・個人の学びをサポートし、地域住民が自発的に動き出す仕組みを整える。
→持続的な発展が可能に

【第 1 分科会 学校と地域の連携・協働】（新見）

事例① 地域一体の「やってみん！」～公教育と社会教育の相互作用を目指して～

・NPO 法人の若手スタッフが、教育コーディネーターとして学校教育と社会教育に関わり、放課後は放課後こども教室のスタッフとして、夕方は子ども食堂のスタッフとして多方面で子どもたちと関わる中で、子どもたちの「やってみたい！」に寄り添う中で、学校教育と社会教育がつながる瞬間を目にする。

事例② 阿波人形浄瑠璃を未来につなぐ

・地元団体の勝浦座を中心に、伝統芸能「阿波人形浄瑠璃」を継承する取組を、教育委員会や小中高校とともにやっている。関わる人が減ってきていることが課題。

【第2分科会 社会教育委員の活動】（星野委員、加藤委員）

事例① 山口市民の well-being の実現を目指す社会教育

・自分が well-being になる活動が他人を well-being にし、それを広げ地域が well-being になることが正に社会教育活動であるという言葉

・山口市社会教育委員会について。15名（うち公募2名）。年6回2時間。

・委員主導での会議運営がなされている。委員の役割が明確であると感じた。

事例② 童謡「あめふり」の心を活かした居場所づくりの取組

・地域に残る郷土芸能、伝統文化、文化財を子どもたちに継承するためにアイデアを生かしながら地道な活動を続けられている行動は、限界集落の存続を背負っている責任感と強い意志によるものと感じた。

・あらあら あのこは ずぶぬれだ やなぎの ねかたで ないている
かあさん ぼくのを かしましょか きみきみ このかさ さしたまえ

→下線部分の歌詞に着目、「あめふりの心」として人権啓発に採り入れている

・今まで当たり前と思われてきたことでも、変だな？と気づいたところから見直していきたいと思った。自分のできるところから。

【第3分科会 家庭教育支援】（ト蔵委員）

事例① 楽しく気づくかわり愛、楽しく継続「親学プログラム」

・島根県教委主催「親学プログラム」修了生自身が声をかけ、仲間たちと「親学プログラム」実践活動へ発展させた。

・鳥取県でも「ファシリテーター養成講座」4期まで修了。修了生を活かした継続活動につながっていない状況をどう変えられるか。県教委・西部教育局とも相談したい。

事例② 過疎地のこどもの居場所～地域でこどもを育てるハブに～

・大きな課題は事業を継続するための資金調達。福祉メインではないため、寄付が中心。

・事例発表を聞いて、社会教育の基礎基本は、「人材育成・人材養成を行い、自分が始めている活動をつながえながら、循環する人づくりを日々続けること」と改めて感じた。

【第4分科会 つながりづくり 地域づくり】（今出委員）

事例① 本で人をつなぎ地域に活力を生む冊子『いよし百冊物語』を発行

事例② 「あったかいまち」のために～多種類事業・行政との連携事業～

・2つの事例をみて、良い取り組みを「広げていく、広がっていく」ために何が必要か、分析する必要性を感じた。

・「良質な体験 それが共感をうむ」という言葉は良かった